

お知らせ

十三日のお盆礼拝受の際の

お茶接待について

新型コロナウイルス禍安全対策の為、例年のお茶接待は形を変え、お参りの方全員に紙パツクの麦茶飲料をご用意いたします。各自お持ち帰りになりお家で飲みください。

広厳寺寄席 開催中止について

例年広厳寺寄席・三遊亭鳳楽独演会開催にあたりましては、多数の方にご来場いただき厚くお礼申し上げます。さて、本年も十月四日に第十六回目の独演会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスが未だ終息にいたらない状況でありますので、感染拡大防止の観点から中止とさせていただきます。毎年楽しみにしておられる皆様方には大変申し訳なく思っておりますが、ご来場皆様お一人おひとりの安心安全を最優先と考えました。尚、来年にはまた楽しい寄席をお届けしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

龍峰山雲泉寺

御開山 源翁心昭禪師

曹洞宗は開祖道元く孤雲懷奘く徹通義介く瑩山紹瑾く峨山韶碩(1275~1365)と続き、峨山のすぐれた弟子達(五哲及び二十五哲と呼ばれる)が曹洞宗を全国に広められた。峨山門下によって開創された寺院は近世江戸期になると「總持寺直末三十六門」と言われ三十六門の中でも八ヶ寺を開創したのが源翁禪師(1329~1400)である。(栃木県那須烏山市・泉溪寺、福島県喜多方市・示現寺、鳥取県大山町・退休寺、山形県鶴岡市・正法寺、福島県白河市・常在院、岡山県真庭市・化生寺、秋田県湯沢市・最禪寺、山形県遊佐町・永泉寺)、その他に三十六門に入らない源翁禪師開創または関係する寺院は、秋田・東光寺、山形・冷泉寺、普門院、福島・慶徳寺、茨城・安穩寺、新潟・雲泉寺、慈眼寺、東光寺、鹿兒島・玉泉寺である。この分布を考えると源翁禪師が関与した寺院は中世の山岳信仰に基づくものであり、その中には、福島、山形

新潟の県境をなす飯豊山がある。

飯豊山は稲作信仰、祖霊信仰の山で、熱塩示現寺(雲泉寺の本寺)や慶徳寺はこの飯豊山の登山口に位置する寺院である。飯豊山は朝日修験者で知られる朝日岳連峰に連なる山であり、その尾根の途中に開創されたのが、新潟県関川村雲泉寺である。源翁禪師開山



(雲泉寺開山 源翁心昭禪師)

の寺々はいずれも中世山岳信仰の山々を背景に持っており、その行動の道筋も山と山を結ぶ国境の尾根に沿って進められた。禪師は福島熱塩の示現寺から飯豊山の尾根を巡り、雲泉寺にたどり着いたと思われる。開山源翁心昭禪師は平成一十一年(1999)に六百回忌を迎えている。

参考「源翁心昭と山林抖擻」

石川力山師

口梅花だより

峰の色溪の響きもみなながら

わが釈迦牟尼の声と姿と

大本山永平寺御詠歌(深声)

傘松道詠(道元禪師の歌集)にある有名な歌です。禪師の開かれた永平寺、深山幽谷にある永平寺、その美しい山々がお釈迦さまのお姿であり、一時も休まず谷間に響く流れる音がみ声である。ここにお釈迦さまがおられる。修行者、私たちに説法してくれている。

昨春秋、先代住職の十三回忌の法要で永平寺を訪れました。先代も永平寺が私の第二の故郷だといつも申しておりました。福井県の丸岡で師匠である神田徳仙の下で弟子となり、二十歳前には永平寺で修行に入りました。その当時の永平寺は熊沢泰禪(永平寺七十三世・昭和三十八年六月当寺晋山・授戒会に戒師を務む)禪師さまでした。「別れても我が行く先は他になし、祖師のみ山の雪のふるさと」この禪師さまの残された句が大好きで、自分も同じようにこよなく永平寺を愛し、毎年春秋の大法要に随喜していました。またお参りに行きます。